

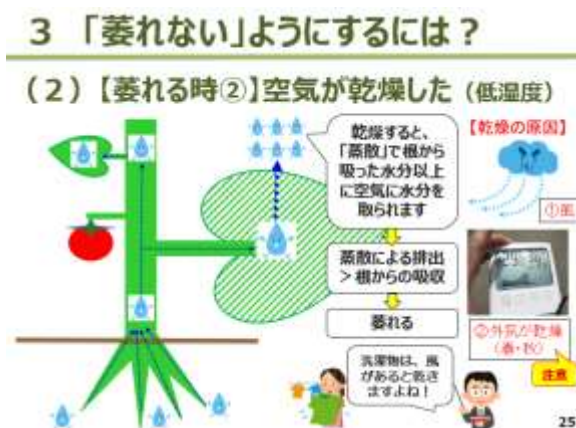
令和 6 年 5 月 23 日
盛岡農業改良普及センター
記述者 島田 真璃奈

光合成を阻害する「萎れ」を防ぐための管理を指導 ―施設野菜の栽培管理技術向上研修会を管内で初開催―

盛岡地域では、ミニトマトを中心に環境制御技術の導入が進みつつありますが、収量・品質向上に結び付けるには、その導入に止まらず、基本的な植物生理の知識を理解した上で、その知識に基づく管理を行うことが重要になります。

そこで、盛岡農業改良普及センターは、5月22日、施設野菜の生産者を対象に、植物生理の基本的な知識と、光合成を阻害する「萎れ」に着目し、その発生を防ぐための湿度管理等を主な内容とする研修会を、岩手中央農業協同組合とともに開催しました。この内容に関する研修会は、盛岡管内では初めての開催となります。当日は、品目の垣根を超え、若手生産者を中心に32名の生産者が出席するなど、関心の高さが伺えました。

次回は、夏秋期の温度管理や高温対策について研修会を開催する予定です。引き続き関係機関や部会と連携し、施設野菜の収量向上及び安定生産に向けて支援していきます。



なかなか理解が難しい植物生理の理論やそれに基づく温湿度管理の考え方を、模式図で示すなど、わかりやすさを重視しながら説明。

講義を真剣に聞く生産者。研修後は、「わかりやすい内容で、参考になった。今後の栽培管理に生かしていきたい」などの声が聞かれました。